

ICT教育のメリットは？

わかりやすい授業



動画や写真を使うことで、板書や口頭での説明では伝えることが難しい内容もわかりやすく説明できます

学習の効率化



板書の内容を児童生徒の端末にワンタッチで共有でき、書き写し時間の短縮につながります

協働での学び



児童生徒同士が端末を使用して教え合い学び合うことで、お互いを高め合い、思考力の育成につながります

情報活用能力の育成



児童生徒たちが情報化社会に対応していく力を身に付けるためにも、ICTの活用は重要です



GIGAスクール構想とは



A

子ども1人に1台の端末と、高速で大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、資質や能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する計画のことです

古河市の取り組みについて
教育長に話を伺いました

市では、2015年に市内モデル校3校に1人1台のタブレット端末を整備し、情報活用能力やプログラミング教育を通じた協働型授業に取り組んできました。その後、令和2年度予算で市内全ての小中学校に無線LAN整備を行い、同時に1人1台端末の環境を実現しました。

ICT教育はそれ自体が目的ではなく「主体的・対話的で深い学び」を得ることが目指すべき姿です。その実現のためには、誰一人取り残さないよう、多様な児童生徒に個別最適化した授業モデルを構築してい

なければなりません。

GIGAスクール構想が提唱され、1人1台の端末を持てる環境が整備されたことで、児童生徒が自分の課題に積極的に取り組めるようになりました。さらに、子どもたち同士の情報交換も密になることで、主体的・対話的学習への効果も期待されています。

また、ICTによる情報教育の進展は、教職員の実務作業をシンプルにしつつ、児童生徒と深く向き合える職場環境づくりに大いに役立っています。授業資料の作成作業が効率化されたことで、授業準備にかかる時間に余裕が生まれ、児童生徒と触れ合う時間が増えました。そのお

古河市教育長

鈴木章二



げで授業内容をより深めることができるようになり、教育の質の向上へとつながっているのです。

市の学校教育においては、子どもたちが変革の激しい時代を生き抜く、未知の分野にも柔軟に対応することができるよう、教育環境のより一層の充実を図ってまいります。



ICT教育で変わる学びのかたち



「ICT」とは Information and Communication Technology の略で、従来の「IT(情報技術)」にコミュニケーションが加えられた言葉です。市では子どもたちの学びの質を高めるため、タブレット端末や学習支援アプリなどのICT機器を使用した授業を行い、学校教育に ICT を活用する取り組みを進めています。

新 新型コロナウイルスの影響で、私たちの生活様式は大きく変わりました。不要不急の外出自粛や学校の臨時休校は、日々の生活がいかに大切なものであったかを見つめ直す機会となりました。学校教育の現場においても、今までとは違った学びの形が急速に検討されています。国が推進するGIGAスクール構想により、児童生徒一人一人がタブレット端末を持ち、ICTを効果的に活用した学習活動が全国的に実施されるようになりました。

ICT教育には、学校現場で児童生徒が使用する端末や周辺機器の整備が欠かせません。市では、ICT機器を効果的に活用した授業の実践に向け、2015年から実証研究を進めています。今年3月までに、全小中学校の児童生徒に1人1台の端末を整備し、校内のインターネット環境などを整えました。現在、各学校でそれらを使用した新時代の教育が行われています。

現在の社会は情報にあふれ、科学技術の進歩などにより急激なスピードで変化しています。今後、未来を担う子どもたちに求められることは、目まぐるしく変わる社会に適應する力であり、その力を育むためにもICTを活用した教育が必要とされています。